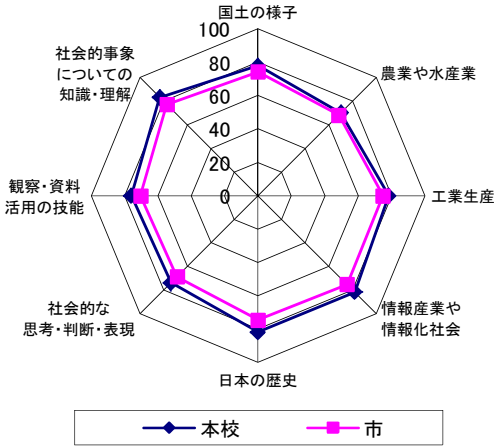


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.9	74.1	72.5
	農業や水産業	70.3	68.4	61.6
	工業生産	78.1	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	81.8	75.3	74.0
	日本の歴史	81.8	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.7	68.7	64.2
	観察・資料活用	76.0	70.3	68.1
	社会的な事象についての知識・理解	83.3	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は市の平均を3.8ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○日本の周辺の海洋名を答える設問や気候のグラフに該当する地域を指摘する設問では、市の平均を7ポイント以上上回っており、日本の国土について理解することができている。 ●環境を大切にすリサイクルについての設問では、市の平均をわずかに下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、地図などを積極的に活用し、日本の位置や周辺の様子について確認する機会を設けるようにする。 ・環境に関する学習では、各自がテーマを設定し、図書資料やインターネットを活用しながら調べる活動を取り入れるようにする。また、日常生活の中でも環境に関する話題を提供し、環境に対する意識をより高めていけるようにする。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を1.9ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○品種改良について、資料をもとに判断する設問では、市の平均を8.8ポイント上回っている。 ●米づくりに向いている地域の特色について考察する設問では市の平均を4.5ポイント下回っており、活用問題に対する苦手意識がみられた。	・新聞やインターネットの記事を提示して話題にすることで、日本の食料生産に対する意識を高められるようにする。 ・資料を読み取るだけでなく、読み取ったことから考察したり話し合ったりする学習を多く取り入れ、学習内容を活用する力をつけられるようにする。
工業生産	平均正答率は市の平均を3.4ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○自動車生産の工程については約96%が正しく理解できている。 ●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る設問では、市の平均を上回っているものの、やや誤答もみられる。	・活用力をさらにつけられるよう、工業生産についての話題を提供し、生活の中で自分たちの生活と工業がどのように結びついているのかを意識させるようにする。 ・資料や地図の読み取りが正しくできるように繰り返し指導する。
情報産業や情報化社会	平均正答率は市の平均を6.5ポイント上回っており、学習内容は身についているといえる。 ○情報ネットワークについて、コンビニエンスストアを例に考察する設問では、市の平均を7.7ポイント上回っている。 ●情報の利用の仕方について判断する設問では、市の平均を5.2ポイント上回っているものの、やや誤答もみられる。	・情報の利用の仕方については、学級活動や情報機器を利用する時などに関連付けて、継続的に指導するようにする。 ・活用力をさらにつけられるよう、情報産業や情報化社会についての話題を提供し、生活の中で自分たちの生活と情報がどのように結びついているのかを意識させるようにする。
日本の歴史	平均正答率は市の平均を7.4ポイント上回っており、学習内容はよく身についているといえる。 ○ほぼすべての項目で市の平均正答率を大きく上回っている。特に奈良・平安時代の文化についてよく理解できている。 ●江戸時代の貿易統制について資料を読み取って表現する設問では、唯一市の平均と同等で、正答率も56.8%とやや低かった。	・絵や写真などの資料を教室に常置したり、歴史上の偉人に関する図書を常置するコーナーを設けて身近に触れられるようにしたりすることで、児童が歴史についてさらに関心を高められるような環境をつくる。